

日中韓三国協力国際フォーラム (IFTC) 2021
テーマ:『TCS設立10周年を迎えて: 次の10年に向けての新たな日中韓パートナー
シップのあり方』
相星大使祝辞
(2021年4月27日10時00分～)

道上尚史日中韓三国協力事務局事務局長、潘基文前国連事務総長、崔鍾文(チェ・ジョンムン)外交部第2次官、シン・海明駐大韓民国中華人民共和国大使、パネル参加者・御列席の皆様、

本日、日中韓三国協力国際フォーラム (IFTC) 2021がこのような盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

日中韓協力は、1999年から続く日中韓サミットの歴史を通じ着実に進展しました。特に2011年に日中韓三国協力事務局(TCS)が設立されて以降は協力が組織化され、経済、文化、スポーツ等の幅広い分野で進展が実現しました。本年、そのTCSの設立10周年を祝うことができ大変嬉しく思います。ホスト国である韓国政府及び歴代の事務局長をはじめTCSを支えてくださった方々に、メンバー国である日本を代表して心より感謝申し上げます。先日、私自身、TCS10周年写真展を見学させていただき、日中韓協力の推進にあたっては多くの方々の貢献があったという思いを新たにしました。

未来志向の実務協力が着実に進展した過去10年、20年を踏まえ、次の10年の協力をどう進めるべきか、というのが、本日のIFTCのテーマとなっています。日中韓の協力分野は多岐にわたりますが、本日のプログラムと関連して私の考えを簡単に述べたいと思います。2019年の日中韓サミットで日本は、次の10年に向けて日中韓協力における柱として、環境、高齢社会、人的交流を提案しました。

環境に関しては、気候変動や海洋プラスチックごみが国際社会全体で取り組むべき問題と認識されています。日中韓三カ国環境大臣会合でも、海洋プラスチックごみ対策について2019年のG20大阪サミットで合意した「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に向け具体的な行動をスタートしました。気候変動の観点では、今年は、22日に米国主催の気候サミットが開催されましたが、11月にはCOP26等が予定されています。ノウハウを共有し連携を深めながら、世界の脱炭素化を前進させていくことができればと思います。また、気候変動や都市化により増加する様々な危機から被害を最小限に抑えるための防災も重要な要素です。日中韓防災担当閣僚級会合では、これらの災害に備えるため予防に焦点を当て、様々な政策を共有する等の協力を進めています。

高齢社会については、活力ある健康的な高齢社会を迎えるために3か国が協力して対応することが求められます。日本と韓国は共に高齢化の速度が世界で最も速い

国の一つであり、中国は高齢者の人口が最も多い国です。共通の課題を抱える3か国が手を取り合って当該問題に取り組み、そのグッドプラクティスを国際社会と共有することで、アジア地域を始めとした国際社会の発展と人々の幸福に寄与できると考えます。

人的交流については、民間レベルの交流の重要性は論を俟ちません。教育交流は将来にわたる友好関係の基盤であり、本年10周年を迎える「CAMPUS Asia」は日中韓協力の成功例の一つと言えます。実際に CAMPUS Asia で学んだ学生が我々の在韓国日本大使館で外交官として活躍しております。CAMPUS Asia 経験者は日中韓協力の架け橋として活躍するなど、その取組は着実に実を結んでおります。また、本年夏に、世界の団結の象徴として、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定です。2018年の平昌(ピョンチャン)から受け継いだバトンを2022年の北京へと渡したいと思います。新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での人的交流が難しい時期なだけに、日中韓3か国がより一層知恵を絞り、協力していく必要があるでしょう。

本日はこれらの点も含めて、次の10年に向けての新たな日中韓パートナーシップのあり方についての活発な議論が展開されることを楽しみにしております。

(了)